

国の有形文化財であり
今もなお災害から地域を守る砂防堰堤

釜ヶ淵堰堤

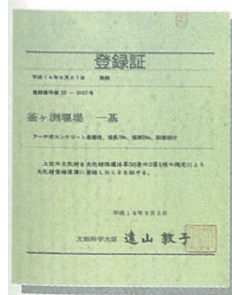
釜ヶ淵堰堤は、梓川の上流に位置する上高地の玄関口に位置する砂防堰堤です。近くにある焼岳は活火山であり、大正4年に大噴火をおこし、その時に梓川がせき止められ、大正池が誕生しました。

この噴火とその後的大雨により、大量の土砂が梓川から信濃川、さらには日本海まで流れ、流域各地に被害を及ぼしました。焼岳や上高地地区の土砂災害を防ぐため、釜ヶ淵堰堤が11年に着手され、昭和19年に完成しました。当時のもっとも進んだ技術を用いて建設された我が国最大級の練り石積みアーチ式砂防堰堤です。

釜ヶ淵堰堤は当時の最も進んだ技術と、周囲と調和した景観が評価され、平成14年に国の登録有形文化財に指定されました。

■国の登録有形文化財

築造後の50年を経過した貴重な構造物を幅広く後世に継承するためにつくられた制度です。



■近年の補修状況

平成21年度より進んでいる老朽化に対応するため改築が行われています。

松本砂防事務所では、平成27年度に砂防設備の長寿命化計画(案)を策定し、老朽化する設備の維持管理、補修を努めています。



H25年度 第一副堤天端 補修後



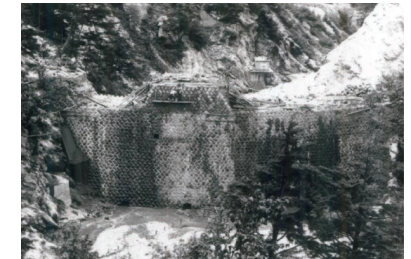
H28年度 第一副堰堤右岸下流(側壁工) 補修前



H28年度 第一副堰堤右岸下流(側壁工) 補修後



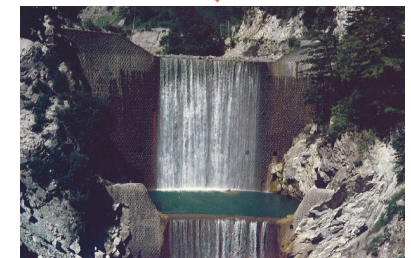
着工前上流側の現場の様子



建設中の状況
上下流側の堰堤表面の石積みは、特に優れた技術を持つ石工職人により、ひとつひとつ手作業で施工されました。



堰堤内部に玉石を埋め込んだコンクリート



完成

■施工の概要

釜ヶ淵堰堤は、当初は3年間で完成の予定でしたが、何度も出水で災害を受け、昭和19年ようやく完成しました。

堰堤の表面は、流下する水や土砂からコンクリートが削られることを防ぐため、石積みがされ、内部のコンクリートには玉石が埋め込まれています。玉石が埋め込まれているのは、当時は貴重だったコンクリートの節約のためと、強度を上げる目的のためです。

着工	完成	形式	高さ	長さ	体積
S11.6.8	S19.12.5	アーチ式	29.0m	79.0m	10,987m ³

※本堤のみの完成はS18.7.2です。



現在の釜ヶ淵砂防堰堤